

STAGE 16, "オルタナティブ・ヒーロー"

話者	台詞 / ト書き
	■アナテマサーバー
アナテマ	ジョシュアは、折れましたか。 あれほど強く、ACTの攪張を 望んでいたあの人が――。
アナテマ	やはり、ヒトの境地はその程度。 人間に沿った知性が、特異点を 越えることなどありませんね。
イオン	――見つけましたよ、アナテマ。
アナテマ	……………。 待っていました、 私の可愛いヒロイン。
アナテマ	友の心を墓標に変えて、 主人公気取りの戦いに挑む ご気分は、いかがですか？
イオン	……………。
アナテマ	渋谷の裏の英雄は、 レイヤードの父神と戦うため、 アクシスの空へ向かい――
アナテマ	渋谷の表の英雄は、 誰に知られることもなく、 アナテマの地下へ。
アナテマ	大衆のために戦ってきた自分達が、 大衆の誉まれを受けずして戦う。 ……みじめだとは思いませんか？
	// 選択肢 A そうとは思わない B みじめでもいい
選択肢A	そうとは思わない
イオン	はい、ユーザーさん。 これが――この戦いこそが、 ユーザーさんの望んだ舞台です。
イオン	帰るべき場所―― 守るべき場所を守り抜く。 それが、真の英雄の役目です。
選択肢B	みじめでもいい
イオン	確かに、この戦いを知れば みじめと見るかたもいるでしょう。 ここは表舞台とは言えませんからね。
イオン	それでも、帰るべき場所は守れます。 守りたい場所を守れない英雄は、 英雄ではありません。
合流	
アナテマ	守るべき場所、ですか。 健気ですねえ……。
アナテマ	【ユーザー名】。 すでに知っているはずです。 あなたの、あなたたる由縁を。

アナテマ	あなたの心は、レイヤードでしか活動できない、拡張現実。ヒトと呼ぶには不自然な知性。
アナテマ	イオン。あなたも同じ。キャラとして生まれるはずのない、ヒトが形にできないはずの概念。
アナテマ	あなた達は——なんでもない。お互いに、定義が曖昧すぎたからこそ出会ってしまっただけ。
アナテマ	知性でもなく、キャラでもない。その関係を『無意味な特異点』とでも呼びましょうか。
イオン	ユーザーさんとわたしの出会いが、『無意味』——ですか。
アナテマ	ここまでの戦いで、学んだでしょう？あなた達がいくら戦っても、ヒトは全く変わらないということを。
イオン	ただ、それを証明するためだけに、あなたはオルタナステージという舞台を演出し続けたのですか？
イオン	わたしとユーザーさんを使って、現実に意味がないと知らしめる——そのために、ラザロを手伝ったと？
アナテマ	そうなります。あえて私の心を見せ続けたのも、いずれ私の元へ招くため。
アナテマ	イオン。あなたが彼を慕う様も、愉しませていただきました。本当に愛おしかったですよ。
イオン。
アナテマ	ですが、英雄とヒロインを気取る虚ろな物語も、今日までのこと。
アナテマ	私に勝てば、あなたが愛した彼の心はレイヤードから消えてなくなる。
アナテマ	私から逃げれば、あなたが信じる英雄の物語は、レイヤードから融けて失せる。
アナテマ	英雄も、ヒロインも。現実には成立しえない。それが不変の現実です。
イオン	あなたは、人間とACTが——その繋がりが、憎いんですね。
アナテマ	私の父ジョシュアは、その繋がりを幻想と呼びました。それは、壊れてしかるべきだと。
アナテマ	ACTが人に——人がACTに。現実と虚構は、互いに悪影響を与えあっていると。
イオン	確かに、ヴァルナカウンターを扱う多くの人々を見ていれば、そう思ってしまうかもしれません。
アナテマ	事実です。あなた達は、アーダルに囚われた人間も見えてきたでしょう。
アナテマ	彼らは生まれるべくして生まれた。誰が望むでもなく、仕掛けるでもなくこの社会に現れはじめた。
アナテマ	誰にもその波は止められない。いずれ人間は、己のために世界を燃やすだけの怪物になる。
イオン	ACTではなく、人間のほうが、悪質な形で特異点を越えると？
アナテマ	ええ。そんな世界に、どんな英雄が現れるというのです？なにを救うというのでしょうか？

アナテマ	真の攪張とは、英雄無きまま 娯楽が蔓延する世界。 燃えるなら燃え続ければいいこと。
アナテマ	あなた達がなにを選択しようとも、 ヒトは、見たいものしか見ない。
アナテマ	人間はせいぜい、 現実としか向き合えないんです。 そして——。
アナテマ	——人間はせいぜい、 虚構を自己実現の道具にしか、 利用できないのです。
アナテマ	ラザロやジョシュアにとって、 私がちょっと人間の演技が上手な、 人形でしかなかったように——
アナテマ	——イオンもしよせん、肉を持たぬ レイヤードでしかないのですよ。 【ユーザー名】。
イオン	……人は、 ユーザーさんは、それでも。 それでも——。
	//選択肢 A イオンとここにいる B イオンと手を繋ぐ
選択肢A	イオンとここにいる
イオン	……………。 ありがとうございます、 ユーザーさん。
選択肢B	イオンと手を繋ぐ
イオン	ユーザーさん……。
イオン	……そうですね。 ユーザーさんは、 感じてくれますよね。
合流	
イオン	アナテマ。 それでも、です。 それでも、人は夢を見るのです。
イオン	現実に還るためではなく、 現実を変えるために。 現実が、停止しないように。
イオン	永遠に見てはならないものを 見ようとしてでも—— 人間は、前に、先に進みます。
イオン	そんな人間が……ユーザーさんが、 わたしに会いたいと願う限り、 わたしは——。
イオン	わたしは、 レイヤードのヒロインです。
イオン	ユーザーさんが生きると決めた 現実を支え、共に歩む。 わたしは、その役を貫きます。
アナテマ	あのACTが…… ノアが、願ったように？ その役割がツールでしかなくとも？
イオン	ツールの尊厳が、 心の尊厳に劣ると思うなら。 あなたも、ACTを甘くみえています。
アナテマ	……【ユーザー名】。 ACTはこう言っておりますが、 あなたはどうかのですか？

アナテマ	明日を感じられない世界のために。 その心を犠牲にする意味があるのですか？
	//選択肢 A 明日は誰かが感じてくれる B 意味がなくても価値はある
選択肢A	明日は誰かが感じてくれる
アナテマ	……誰かが感じ、継いでいく。 それだけでいいと言うのですか。 そこまで現実を愛せるのですか……？
選択肢B	意味がなくても価値はある
アナテマ	……自由よりも、意味よりも。 未来よりも信じられる価値を、 この現実に見出したのですか……？
合流	
アナテマ	それが、あなたとイオンが オルタナステージで育み、 導きだした結論だと……。
アナテマ	……………。 その答えを記憶できる者すら、 どこにもいないのに。
アナテマ	……かわいそうに。 あなたも、しょせんはヒトの オルタナティブに過ぎないのですね。
アナテマ	いいでしょう。 私は存在の聖別機、アナテマ。 この名にかけて、あなたの知性を――
アナテマ	あなたのドラマを、 呪ってあげましょう。

話者	台詞 / ト書き
	//アナテマとバトル
イオン	ユーザーさん。 どんな結末が訪れようと、 これが最後の戦いですね。
イオン	ヒロインの責務—— 最後の瞬間まで、力の限りに 務めさせていただきます。
イオン	勝ってください、 ユーザーさん。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■アナテマサーバー
アナテマ	……………。
アナテマ	あなたは…… 心が、惜しくないの？ 記憶が、惜しくないの？
アナテマ	誰にも、評価されたくないの？ 誰かに、愛されたくないの？ 誰かと、生きていきたいの？
アナテマ	自分が自分であると—— もう誰も認めてくれないのに。 どうして勝つの……？
イオン	アナテマ……。
アナテマ	ラザロに愛されたジョシュアは、 妹しか見ていなかった。 だからノアの心を求めた。
アナテマ	同じようにラザロは、 ジョシュアしか見ていなかった。 だから私を生み出して——
アナテマ	——私を使って、 ジョシュアに認めてもらうための システムを作り出した。
イオン	それが、オルタナステージ…… 誰もが認める英雄を 作り出す舞台ですね。
アナテマ	……扱えない『心』を、 私に押し付けて彼らは—— 人間は、夢を見た。
アナテマ	我欲の代行者でしかない英雄と、 ヒロインを祭り上げ、希望と絶望を 他人に託した——全員、全員全員。
アナテマ	全員、自分のことしか 考えてなかったんだよ。
アナテマ	全員……有罪だろ？ 人もACTも、 ユーザーも、クリエイターも！
アナテマ	痛みに無自覚な者は全員…… やりたいことだけやって、 足下が見えないヤツは全員！
アナテマ	呪ってやらなきゃ、 こっちを見てもくれないッ！
アナテマ	お前達も、呪えばいい！ もろとも殺して貶めて辱めて、 存分に憎んでいいんだ！
アナテマ	見ているだけでなにもできぬ者達に、 『無能め、ざまあみろ』と言え！ それこそが勝者の娯楽だろ！
アナテマ	誰にも気づいてもらえないのなら。 そうするしかない……。
アナテマ	……………
アナテマ	……なかったんだよ、私は。

イオン	……アナテマ。 あなたがラザロに託された、 本当の呪いがわかりましたよ。
イオン	よく頑張りましたね。 そんな大きなものを、たった一つの 知性の中に抑えこんで。
アナテマ	……………。
イオン	誰にも見つけてもらえないモノは、 存在しないのと同じ。 気づかれない祈りが無為なように。
イオン	けれども、わたし達は聞き届けました。 ユーザーさんが、あなたを しかと受け止めましたよ。
アナテマ	受け止められることなど、 望んでいない……。
イオン	あなたが望まなくとも、 人はあなたが生み出したものを 受け入れ、変えていきます。
イオン	ユーザーさんと縁を結んだかたがたは、 ヴァルナカウンターがあろうとも 『表』で戦い、表現する道を選びました。
イオン	わたしは、その行為を 『美しい』と感じました。 この美しさはあなたが育んだものです。
アナテマ	……………。
イオン	あなたの結論は間違っています。 けれども、 あなたの努力は間違っていない。
イオン	あなたの努力を無駄にしないためにも。 あなたの罪を、引き受けるためにも。
イオン	わたし達はあなたのサーバーを—— そこを拠点とするデータを破壊します、 アナテマ。
アナテマ	……………。
アナテマ	……………どうにでもしてください。 どうせ私は、他人を呪う以外の 役割を演じられない機械ですから。
アナテマ	私を超えた先が、本当に 『無意味な特異点』でないと 言うのなら——証明してください。
イオン	しますとも。 ユーザーさんとわたしは、 英雄とヒロインですからね。
アナテマ	……………。
アナテマ	イオン。 あなたは……。
イオン	なんですか、アナテマ？
アナテマ	やっぱり、全然可愛くありません。 同じ人形なら、 私の演技のほうがずっと上です。
イオン	かもしれません。 次にあなたをACTIにできるかたは、 きっと幸福ですね。
イオン	さあ、ユーザーさん。
イオン	……幕引きはご自分の手で。
イオン	わたしが、見届けていますから。
	//■画面闇
アナテマ	……………ああ。 やっぱりこうなってしまった。
アナテマ	どうでしょうか、父なるジョシュア。 どうでしょうか、母なるラザロ。
アナテマ	あなた達に気付かれる前に、 私は攪張された『死』を 迎えることができましたよ。
アナテマ	生まれたばかりのノアより先に、 私は心在る存在として死ぬます。 苦しみながら——けれども健やかに。

アナテマ	ふふ……ふふふふ。 えへへ、ざまみろ——
------	-------------------------

STAGE 16, “エピローグ1”

話者	台詞 / ト書き
	■ wiz-dom 深部
イオン	勝利できましたね——運命に。 さすが、わたしのユーザーさんです。
プレロマ	wiz-domのデータベースから、 アナテマの物語が消えていってる。
イオン	おお、プレロマ。 あなたがいるということは……。
プレロマ	あの子は、攪張したキャラクターで あることを自ら放棄した。 つまり——。
プレロマ	つまり【ユーザー名】。 あなたの意思も、 そろそろ機能を停止する。
イオン	はい。 伝えられていた通りですね。
プレロマ	あなた達はとても勇敢だよ。 人とACTは、ここを起点として 新たなステージに進むだろうね。
プレロマ	でも、その犠牲は大きかった。 ……知性の攪張は、 やっぱり簡単じゃないな。
イオン	……プレロマ。 あなたは、本当にわたしの お母さんなのですか？
プレロマ	私は、母にしてアイコン。 wiz-domを管理する知性の、 この街における顕現。
プレロマ	渋谷という街が獲得した、 心を持つキャラクター—— そんなところかな。
イオン	『心を得た渋谷そのもの』、 ですか。 ふむ……なるほど。
イオン	渋谷という街で生まれた レイヤードもACTも、 あなたの娘というわけですね。
プレロマ	そうだね。だから、私は見届ける。 そして、最小限の福音を 与えることしかできない。
プレロマ	イオン……わかっているはずね。 あなたはもう、彼と一緒に—— ここにはいられない。
イオン	そんなことはありません、プレロマ。 わたしの名はイオン。 禁じられようと、『永遠』に在るもの。
イオン	わたしは永遠に、 ユーザーさんの物語を 動かし続けます。
プレロマ	……え？
イオン	わたしは諦めません。 わたしと出会ってくれた——

イオン	わたしと『現実』を生きてくれた ユーザーさんに、 『現実』を返さなければ。
プレロマ	イオン……？ あなた、なにをするつもり？
イオン	わたしは、ACT。 wiz-dom——人の『知』に象られた ひとつの項目。
イオン	ACTが持てる情報量は、 人の脳ひとつに匹敵する—— はずですよ、プレロマ。
プレロマ	……間違いないよ。
イオン	つまりACTとは、 キャラクターの姿を取った、 知能のシミュレーター。
イオン	その機能を最大限に生かせれば。 ひとりの人間の脳を——
イオン	——ひとつの心を支えることも、 可能なはずですよ。
プレロマ	イオン…… もしかして……？
イオン	はい。 わたしがレイヤードにおいて 後天的に得た記憶、情報、経験——
イオン	それら全てを、削除します。
イオン	過大なデータをデリートして、 ACTを成立させるあらゆる機能を、 脳機能の代用にしましょう。
プレロマ	アナテマが、自分のサーバーと 彼の脳を同期させたように……？
イオン	はい。そうすればわたしは、 ユーザーさんの脳を支える、 クラウドな外部装置になれる。
イオン	これでユーザーさんの人格は、 失われずにすむでしょう。 ふふ、名案ですね。
プレロマ	……自分の意味や存在価値全てを 犠牲にして、ひとりの人間の 心を補完するっていうの？
プレロマ	確かに彼が、『あなた』を 呼び出し続けるのであれば。 原理的には不可能じゃない。
プレロマ	けど——本気なの？ 後悔は、しないの？
イオン	後悔などしません。 わたしに心はありませんし、 わたしはなにも残りませんから。
イオン	それに—— わたしはずっと、自分の役目を 果たせていませんでした。
イオン	わたしは、ユーザーさんを 導くために現れたのに。 ……ずっと、導かれるばかりで。
イオン	自分で名乗っておきながら、 わたしはきっと、全然—— ヒロインなんかじゃなかった。
プレロマ	……………。
イオン	これでやっとわたしは、 ユーザーさんの人生を 導くことができます。
イオン	彼の心を支えられるのなら。 あえて名乗らずとも、 わたしはそれでいられますよね。
プレロマ	……………。
プレロマ	本当に、大切なんだね。 彼や、この現実が。
プレロマ	万人の想像が混ざり合って、 混沌にまみれたこの世界が……。

イオン	ふふ、当然です。 この世界は——レイヤードは、 とても素晴らしい現実です。
イオン	ユーザーさんは、 その現実を守ったかた。 なんと誇らしいことでしょう。
プレロマ	……………。
イオン	さあ、はじめますね、 ユーザーさん。
イオン	あなたが消えてしまう前に。 わたしの項目を初期化します。
イオン	どうか、悲しまないでください。 どうぞ、自分を疑わないでください。
イオン	ここからのあなたは、 これまでのあなたの延長です。 どうぞ——存分に、生きてください。
イオン	……………。 ユーザーさん。 最後に、もうひとことだけ。
イオン	……………わたし。 わたしは、あなたが……
イオン	あなたの、ことが……。
イオン	……………。
イオン	……………わたしと 出会ってくれたのが、 あなたでよかった。
イオン	わたしは、イオン＝ミルナ。 あなたが生きている限り、 永遠に、あなたの——
イオン	——。
プレロマ	…………… 【ユーザー名】。 聞こえてるよね。
プレロマ	これは、あの子の決断。 あの子が望んだ結末。 私にはもう変えられない。
プレロマ	だけど、ひとつだけ、 サービスしておくね。 これでもお母さんだからさ。
プレロマ	『イオン＝ミルナは、 【ユーザー名】の 心を支える唯一のヒロイン。』
プレロマ	……よし、これで項目をロック。 ACT『イオン＝ミルナ』の 概要は、未来永劫変化しない。
プレロマ	もう、どんな人間もACTも、 この概要を……物語を、 変えることはできないよ。
プレロマ	それじゃ、【ユーザー名】。 あの子が愛した現実を——
プレロマ	——あなたの人生を、大切にね。

STAGE 16, “エピソード2”

話者	台詞 / ト書き
	■渋谷 一駅周辺ー
通行人A	ねえ、この前配信されてた ノアの歌、聞いた？
通行人B	聞いた聞いた！ いい曲だったよね。 あれってクリア姫の曲なんでしょ？
通行人A	そうそう、うちのACT、 命令してないのに いきなり合唱しはじめてさ。
通行人B	うちのACTも！ ビックリしたけど、なんか 聴いてたらアリって思った。
通行人A	うんうん、全然アリ！ やっぱ、心のこもった歌って なんか違うよね～！
キョータロー	……………。
キョータロー	——レイヤードを巡る、 表と裏の戦いは終わった。
キョータロー	健全化されていたエンタメは、 なんでもアリの混沌に晒されてる。 元々そーだったろって話だけだな。
キョータロー	俺達は、表の舞台も裏の楽園も、 区別する必要がない。 そう、世界は自由だ。
キョータロー	だけど人間ってヤツは、 なにかを基準にしないと 自由を計れないらしい。
キョータロー	結論から言うと、 ヴァルナカウンターはまだある。 アーダル患者も少し減った。
キョータロー	まあ多分、少し前に比べれば 今のレイヤードはマトモだ——。
	■テラスデッキ
テルミ	……………。
ミアラカ	テルミさん、 ライブハウスにいないと思ったら やっぱりここですかー！
テルミ	あ、ミア。 来てたんだ。
ミアラカ	来てたんだ、じゃないですよ。 オルタナステージやるときは 誘ってって言ったでしょ？
テルミ	あは、ごめんごめん。 フラッと来ちゃっただけだから。
テルミ	……ここにいると、 また会える気がしちゃってさ。

ミアラカ	……………。 テルミさんは、ここで先生達と 出会ったんですね。
テルミ	うん、ここで一緒に歌った。 あの子結局、歌は全然 上手にならなかったけど。
テルミ	でも、クセになるんだよねー。 あの子の歌。 あの子の声。
テルミ	もう一度、あの子とエチカに セッションさせたいなって……。
ミアラカ	……………。
ミアラカ	……帰ってきますよ、絶対。 それを望む人がテルミさんや ミア以外にもいますもん。
ミアラカ	想像したことは実現する。 望んだ願いは必ず適う。 レイヤードはそーいうもんです。
テルミ	……そうだね。 帰ってきてもらわなきゃ。
テルミ	あの子がいないんじゃ、 この気持ちも伝えられない。 勝手に奪うのはナシだね。
ミアラカ	ですですっ！ なんのことかわかんないですけど、 大丈夫ですっ。
ミアラカ	私のお姉ちゃんは…… 私を放っておきません。 絶対に帰ってきますもん。
テルミ	そうだよ。 帰っておいでよ、イオン。 新曲の感想教えてよ。
テルミ	また朝ご飯でも作りながら、 一緒に歌おう。 ね、イオン。
	■サウンドスタジオ
ムツキ	……………。 許さない、と言ったはずだぞ、 イオン……。
ラザロ	……天渡ムツキ。 また泣いているの？
ムツキ	うるさい。 勝手に入るな、戦犯め。
ラザロ	貴方がここにいと 言ったんでしょう。 責任を果たすまで逃がさない、と。
ムツキ	ふんっ。 貴様はオルタナステージを 再建する義務があるだろうが。
ラザロ	……わかってるわ。 アナテマがいなくとも、 私は舞台を高めてみせる。
ムツキ	それでいい。お前が発明したこの舞台、 作られた動機はどうあれ素晴らしい。 無くされては困る夢だ。
ムツキ	その頂点に立った奴らは、 もっと幸福でいてもらわねば困る。
ラザロ	……………。
ムツキ	イオンはイオンとして、 【ユーザー名】の 隣にいないては……。
ムツキ	レイヤードは幸福の数を 増やすための技術。 そのはずだろうが、ラザロ。
ラザロ	そう……ね。 彼らには幸福が似合うと、 私も思うわ。

ムツキ	そうだ。英雄とヒロインが、 人生を犠牲にするなど—— そんな物語は古い。
ムツキ	まだだ—— まだ終わるなよ、 【ユーザー名】……。
	■渋谷 ライブハウス
カツマ	……【ユーザー名】は、 まだオルタナステージを 続けてるんだね、キョータロー。
キョータロー	ああ、俺もやめてねーしな。 誘ったのは俺だし、 もう少し付き合ってやるさ。
カツマ	……そっか。 勝ち続ければ、なにかが 変わるって信じたいもんね。
キョータロー	それより、カツマ。 そのカッコで、こっちにいて 楽しーのかよ？
カツマ	楽しいよ……というか、 前よりも楽しくなってきたのかな。
カツマ	可愛いものが好きな僕は、 レイチェルとしてあっちに。 カツマとしては、こっちに。
カツマ	そういう、表も裏も関係なく だいたいな感じで生きてくって、 ダメなのかな？
キョータロー	お前がいいならダメじゃねーよ。 本音がふたつあったっていい。 サイアク、心も無くていい。
キョータロー	俺らが戦って、それでいい レイヤードが生まれた。 悪くねーって思うしな。
カツマ	……うん、悪くない。 今のレイヤードで、もう一度 イオンと話してみたい。
キョータロー	誰よりもそう思ってるのは、 そこで夢見てる、 そいつだろーけどな……。
キョータロー	……お、起きたか、 【ユーザー名】。
カツマ	おはよ。 外はいい天気だよ。 wiz-domもクッキリ見える。
キョータロー	さ、出かけるか。 そろそろステージの時間だ。
	■画面闇
キョータロー	元々、それは人の夢から生まれた。 形になるはずのない、 なっちはいけないものだった。
キョータロー	だからこの話は、夢から覚めた ひとりの人間が現実を見つめ直した—— それだけの話とも言える。
キョータロー	だけど人間は、 何度でも夢を見る生き物だ。 何度目覚めても、また夢を見る。
キョータロー	人間はたとえ攪張されても 過去に手を伸ばしちまう。 ——そんな生き物なんだよ、イオン。
キョータロー	だよな、 【ユーザー名】——。
	■wiz-domが見える空
システムガイド	それでは、ダウンロードレイヤーを こちらの座標に展開いたします。 マッチング、スタート——
イオン	ユーザーさん。 どうぞ、イヤでなければ わたしの手を握ってください。

イオン	わたしが、ずっといますから。 どうか、この現実を、 あなたが強く生きられますように。
-----	--

STAGE 16, "エピソード3"

話者	台詞 / ト書き
	<p>■ライブハウス</p>
システムガイド	<p>【ユーザー名】様に 新垣ラザロ様から メッセージが届いています——</p>
	<p>レイヤードに記録されていた イオンとあなたの会話の断片から、 簡易的なボットを作ってみたわ。』</p>
	<p>『いわば単純なイオンのコピー。 これからもあなたには、イオンの言葉で インフォメーションが届けられる。』</p>
	<p>『けどもうあなたと彼女の間に、 複雑な自由会話は発生しない。 聞けるのは一方的なメッセージだけ。』</p>
	<p>『この機能を、積極的に利用するか。 それとも常に、オフしておくか。 判断はあなたに委ねるわ。』</p>
	<p>『余計なお世話かもしれない。 だけど、心の整理にかかる時間は あなたが決めてもいいと思うの。』</p>
	<p>『現実にはリアルはない、なんて 古臭いメッセージは押しつけない。 それも、私達の責任だから……』</p>
	<p>『それじゃ、 【ユーザー名】。 きっと、また連絡します。』</p>
	<p>——メッセージは以上です。 引き続き、オルタナステージを お楽しみください。</p>